

—夏季大学雑感—

第17回夏季大学『新しい気象』講座雑感

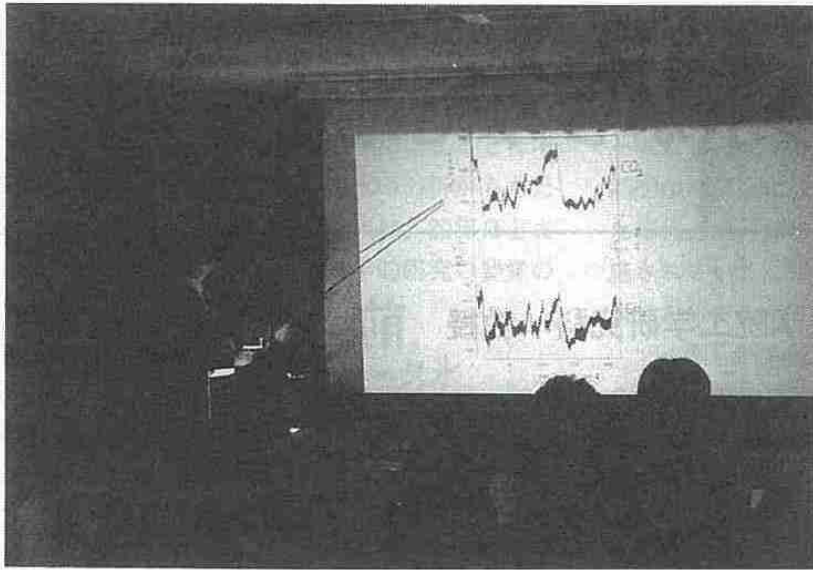
札幌市青少年科学館 富井 卓

第17回を迎えた夏季大学『新しい気象』は、本年も多くの方々にご参加いただき、盛況のうちに終わることが出来ました。

講座の初日は、札幌青少年科学館において、「南極の氷からみた地球環境」、「GPSと天気予報」の2講が行われました。1講目は、南極の氷の分析がもたらす貴重な研究成果を解説していただきました。氷の内部には何万年も前の大気が存在するというお話に、多くの参加者が驚かれたようです。1講目終了後には科学館の低温展示室で、実際に南極の氷の展示を見ていただきました。2講目は、最新の天気予報技術とそれを支える気象観測データの解説を中心に講義が進められました。参加者からは、改めて天気予報の難しさが理解出来たという声が多く聞かれました。

2日目は、会場を札幌管区気象台に移し、「津波に関する基礎的な知識と新しい津波予報」、「シベリア寒冷圏と地球環境」の2講が行われました。1講目は、津波の発生の仕組みや性質についてお話していただきました。参加者からは、津波の高さや規模の意味を今まで誤解していたという声が聞かれました。2講目は、シベリア地域の気候の解説や地球環境に及ぼす影響について、豊富な資料に基づく講義でした。特に、地球環境のシミュレーションが参加者の興味を引いたようです。

最後になりましたが、今回の講座開催に当たりまして、ご指導いただきました気象学会北海道支部の皆様、会場や準備や観測機器等の解説にあたられた札幌管区気象台の皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



受講風景
(札幌市青少年科学館)



受講風景
(札幌管区气象台)



札幌市青少年科学館
見学風景